Creative Enzymes®

組換えウシβ-1,4-ガラクトシルトランスフェラーゼ1

Cat. No. BBGYG-0001

Lot. No. (See product label)

はじめに

□明	ウシ由来β-1,4-ガラクトシルトランスフェラーゼ1（Y289L）は、ドナー基質特異性が□張された□異型ガラクトシルトランスフェラーゼであり、末端GlcNAc残基にGalNAcまたはGalNAzを転移します。
用途	O-GlcNAc修飾タンパク質の化学酵素的標識化；糖鎖エンジニアリング；下流のクリックケミストリー解析に供するアジド官能基化糖鎖複合体の調製。
別名	ウシ由来B4GALT1（Y289L）；GalT Y289L；Y289L□異型β-1,4-ガラクトシルトランスフェラーゼ1

製品情報

種	ウシ（Bos taurus）
由来	組換えHEK293細胞発現；C末端Hisタグ
外□	無色□淡黄色の液体
形態	液体
分子量	50.8 kDa
比活性	2500 U/mg
特異性	末端GlcNAc残基にGalNAcまたはGalNAzを転移する。
活性化因子	Mn^{2+}
安定化剤	グリセロール20%
緩衝液	20 mM Tris-HCl、200 mM NaCl、pH 7.4
機能	末端GlcNAc残基にGalNAcまたはGalNAzを転移し、ドナーとしてUDP-GalNAzを用いた場合には反□性アジド基を導入する。
単位定義	1ユニットは、37°Cにおいて、UDP-GalNAzからGlcNAcへGalNAzを1分間あたり1 nmol転移する酵素量として定義される。
反□	UDP-GalNAz＋末端GlcNAc受容体 → GalNAz標識化生成物＋UDP
備考	Y289L置換により、ドナー基質の受容性が□大し、GalNAcおよびGalNAzが受容可能となる。
プロトコル	1. 50 mM Tris-HCl（pH 7.5）および 6 mM $MnCl_2$を用いて反□系を調製する。 2. UDP-GalNAz：抗体の当量比を 300：1 とする。 3. 酵素の添加量は抗体量に□して 5% とする。 4. 37°Cで 48 時間インキュベートする。 5. 反□停止のため、反□液を -25°C〜-15°C に移し、その後サンプル分析を実施する。
使い方	O-GlcNAc修飾タンパク質の化学酵素的標識および糖鎖修飾ワークフロー向け。

使用法とパッケージング

包装	100 µg 1 mg 5 mg 10 mg 50 mg

保管・発送情報

保存方法	バッチ別に推□される保管条件下で保管してください。